

『時事直言』 No.1800 2026年4月27日 国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] t_masuda2019/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

特別号

日本は何時まで「力による現状変更を認めない」を 主張し続けるのか

日本の歴代の総理も現在の高市総理も「力による現状変更を認めない」が口癖である。

では一体変えてはならない「現状」とは何なのか。

戦後アメリカが「世界の警察官」であった間に築かれたのが今日の現状であり、パックスアメリカーナ(アメリカの世界覇権時代)の置き土産である。

「アメリカは最早世界の警察官でない」と、2009年のオバマ大統領、その後のバイデン大統領、そして又トランプ大統領が発表したアメリカの国家安全保障戦略で、アメリカは世界の警察官ではなく、今後は西半球に責任を持つことを明確にしている。

従って「現状は過去」である。

軍事大国ロシアは、ウクライナ侵攻で現状を「力で変更しようとしている」。

軍事大国アメリカは、フェンタニル密輸などと理由の為の理由でベネズエラに侵攻、現職のマドゥロ大統領夫妻を拉致し、「力で世界最大の埋蔵量(3,000億バレル)の原油を我が物にしようとしている」。

さらに核廃絶を理由にイランの軍事施設と経済インフラをイスラエルと共に13,000回以上空爆、「力で世界一埋蔵量34兆立方メートルの天然ガスを奪おうとしている」。

「力による現状変更認めず」は「法の支配の下で開かれたアジア太平洋」と共にユートピアである。ユートピアを主張しているのは、日本をはじめアメリカ、ロシアと中国と戦っても勝てない「力の弱い国」ばかりである。

弱い者が頼るのは法しかないが、強い者は法を無視、力にモノを言わせて弱い者から奪う、、、これが政治力学の原理である。

戦後アメリカが弱肉強食の戦争時代を終わらせ、二度と戦争時代が来ない為に基本的人権を最高法規とする民主主義を世界に普及してきたが、そのアメリカ(トランプ)が世界を再び弱肉強食の戦争時代に戻そうとしている。

人間は肉体(軍事力)と精神(思想・哲学)から出来ている。

戦後のパックスアンリカーナ(アメリカの世界覇権)は軍事力と経済力だけでは不十分なので民主主義の価値観(精神)を世界に定着させたのである。(「小冊子」157号参照)

民主主義はアメリカの世界覇権に必要な「御用哲学」であったのである。

では戦後の民主主義普及後の結果はどうだろうか。

人種格差と貧富の差拡大、国家分断、弱肉強食横行等々で、民主主義普及で目指した正反対の結果になっている。

トランプは民主主義を破壊しようとしているのではない。

トランプは戦後の民主主義普及の結果に積極的に従っているだけである。

「人間はか弱い葦であるが社会的葦である」(パスカル)。

か弱い者の烏合の衆が主権を握ると混乱の坩堝になる。

「秩序なくして人間無し」。

秩序は反自由、対人間監視、コントロールを求める。

民主主義衰退の後には、自由より秩序を優先する時代になり、もう後戻り出来ない。

日本は「力による現状変更を認めない」などノスタルジアに浸っている場合ではない。

トランプが世界中に脅迫や騙しで不信を撒き散らしている中で日本は銭金と暴力を超越した信頼、尊敬、そして尊厳を世界に普及するイニシアチブを採るべきである。その為にも国際協力機構(JICA)、政府開発援助(ODA)の実施機関の予算を倍増すべきである。

日本は政治力学ではなく「心の力学」の先進国になるべきなのである。

詳しくは私の「小冊子」Vol. 157 を精読して下さい。

**大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」
いつでも繰り返し何度でも視聴可能！**

皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。是非、この機会にお申し込みください。

【配信予定内容】○損をさせない「早朝株式指南」○本日の世界政治・経済情勢の裏(真実)
★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtubeの視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U. S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313、HP : <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。

